

公民館を拠点とした仮設住宅等の生活環境改善支援

指導教員 金沢工業大学 教授 下川雄一 (Toiro プロジェクト)
福井大学 准教授 菊地吉信

参加学生 金沢工業大学

3年	市橋奈々佳	亀田宏大	北川大翔	田中壮汰	永井智也
	鳴澤理恵	日置真翔	源侑美	若月萌衣	我如古彩祢
	窪田集	佐野堇	早川隼之介	三原愛生	毛利慶將
	吉岡未結	梅田悠汰	大塚淳生	中村圭佑	山下琉大
	山本将晴	島谷東生	前田悠陽		
	AFAF ALAA ABDELMONEIM HUSSIEN		GIOVANNA LUISA DE SOUSA MOTA		
2年	浅井遼介	高野廉真	佐野瑠音	福島初菜	金田唯翔
	中田千翔	伊原星瑠			

福井大学

大学院	倉橋聡平	佐藤瞳	水野峻輔	水野峻輔	
	LIU YONGZEYUAN		河里涼平	黒田萌佳	肥田叶翔
4年	北郷心太郎	酒向ひらり	道坂宇飛		

【謝辞】

本活動の実施にあたり、能登町・復興推進課の皆さま、上町公民館の皆さまには多大なご協力を賜りました。ここに記して厚く御礼申し上げます。

また、福井大学工学部の菊地研究室の学生の皆さまと菊地吉信准教授には遠方より活動にご参加いただき、誠にありがとうございました。

本活動は令和6年能登半島地震を受けて設立された任意団体 GAPPA noto の活動の一環として実施いたしました。GAPPA noto の Web サイト (<http://gappanoto.jp>) では本活動を含めた他地域での他ゼミナールの多様な活動が紹介されております。令和8年度も継続して活動予定であり、随時更新して参りますので、ご高覧いただけますと幸いです。

公民館を拠点とした仮設住宅等の環境改善支援

金沢工業大学 Toiroプロジェクト + 下川雄一 × 福井大学 菊地研究室 × 能登町役場・復興推進課 + 上町公民館

2025年5月25日(日)
活動風景

- ・アイデアボードを使った
住民ニーズ把握
- ・交流イベント
手作りクリームあんみつ
- ・収納ボックス/ラック
製作ワークショップ



2025年8月31日(日)
活動風景

- ・交流イベント
竹製手作り流しそうめん
- ・竹工作ワークショップ
水鉄砲
ガーデンライト
多肉植物プランター



2025年11月22日(土)
活動風景

- ・交流イベント：おでん炊き出し
- ・アイデアボードを使った
住民ニーズ把握
- ・灯籠作りワークショップ
- ・ベンチ設置



1. 活動の要約

令和6年能登半島地震を受け、応急仮設住宅団地の避難生活者の環境改善支援を行うため、任意団体 GAPPA noto が設立された。GAPPA noto は石川県、富山県、福井県の大学・高専の建築系学科の学生・教員が連携し、輪島市・珠洲市・能登町・穴水町・七尾市の5市町9か所仮設住宅団地を対象とし学生グループごとに担当地域を決め、避難生活者との交流を踏まえたものづくりとことづくりを通じた支援を実施している。その活動の一環として本ゼミグループ（金沢工業大学の課外活動プロジェクト団体である Toiro プロジェクトの学生達と顧問の下川、ならびに福井大学工学部の菊地吉信研究室の学生達と指導教員の菊地吉信准教授による連携組織）では能登町・上町公民館を拠点として、能登町・復興推進課と連携し、上町およびその周辺エリアの仮設住宅生活者や在宅生活者を対象に、生活環境の改善および避難生活への潤いの提供を目的とし、学生主体の活動を実施してきた。

2. 活動の目的

能登半島地震後に整備された能登町・応急仮設かんまち住宅を中心とする上町地区において、住民の生活環境の改善およびコミュニティ形成を支援することを目的とした。具体的には、(a) 住民ニーズの把握・可視化、(b) 生活改善に資する実用品の提供・制作支援、(c) 世代を越えた交流機会（場づくり）の創出を一体的に実施し、継続的な支援活動を実施することを狙いとした。

3. 活動の内容

3-1. 実施体制

実施主体：GAPPA noto（北陸建築学生仮設住宅環境支援プロジェクト）

金沢工業大学 Toiro（学生延べ30名程度、教員：下川雄一教授）

福井大学・菊地研究室（学生延べ10名程度、教員：菊地吉信准教授）

連携組織：能登町・復興推進課、上町公民館

主な実施場所：能登町 上町公民館（および応急仮設かんまち住宅周辺）

3-2. 実施内容

① 2025年5月25日(日) 実施内容

(ア) 住民ニーズ把握（アイデアボード）： シール投票と自由記入を併用した意見収集を実施し、今後の活動に必要な要望（居場所づくり、子ども・親子向け企画等）を整理した。

(イ) 収納ボックス/ラック製作ワークショップ： 事前予約制で参加者を募り、部材の事前準備を行った上で、当日は住民参加型で組立作業（ビス止め等）を実施した。完成品は持ち帰っていただき、日常生活の収納改善に資する実用品として提供した。

(ウ) 交流イベント： 収納ボックス/ラック製作の順番待ち時間での交流のきっかけづくりとして、学生がクリームあんみつを手作りし、参加者に振るまった。これにより、アイデアボードでの意見収集や交流を促進した。

(エ) 活動記事： <https://gappanoto.notion.site/5-25-20edbd85ada58012a6b4d95c81eea288>

② 2025年8月31日(日) 実施内容

(ア) 交流イベント（竹を用いた流しそうめん）： 前回意見収集で得られた住民要望を踏まえ、竹材を用いた流しそうめん装置を製作し、上町公民館にて実施した。装置は全長約8mとし、子どもから大人まで参加しやすい高さ・設えに配慮した。

(イ) ものづくりワークショップ（竹工作）： 竹材を材料として、水鉄砲・多肉植物プランター・ガーデンライト等の制作を実施した。親子参加を含む世代混在型の制作環境を準備し、制作行為を通じて交流を促進した。

(ウ) 活動記事： <https://gappanoto.notion.site/27bdbd85ada58006934dfc49012ec413>

③ 2025年11月22日(土)実施内容

- (ア) 交流イベント(おでん炊き出し): 住民・近隣住民の参加促進を目的として炊き出しを行い、温かい飲食提供を通じて自然な会話・交流が生まれる状況を形成した。
- (イ) 住民ニーズ把握(アイデアボード): 各テーブル等にアイデアボードを配置し、生活上の困りごとや今後の要望を継続的に収集した。
- (ウ) ものづくりワークショップ(灯籠づくり): 事前準備した木の骨組みに、和紙の作画・貼付、装飾パーツの接着等を行い、地域の祭礼文化(キリコを想起させる意匠案を含む)に接続した制作体験を提供した。
- (エ) ベンチ設置と次回企画準備: 8月の回で大学から持ち込んでいた手作り品を屋外の上町公民館玄関脇(屋外)に設置するため、ベンチの塗装を実施するとともに、次回のイルミネーション企画に向けた手すり・フェンス等の寸法計測や点灯確認、周辺状況調査を行った。
- (オ) 活動記事: <https://gappanoto.notion.site/11-22-2ccdbd85ada580b4999deaf58ee5bd96>

4. 活動の成果

- ① 住民ニーズの把握と企画への反映: アイデアボードを用いた可視化・蓄積により、住民の具体的な要望を把握し、8月企画(流しそうめん)等に反映することで、「意見収集→企画化→実施」の循環を形成した。
- ② 生活改善に資する実用品の提供: 5月の収納ボックス/ラック製作により、住民が自ら手を動かして実用品を完成させ、持ち帰って使用できる形で生活環境改善に貢献した。
- ③ 世代を越えた交流機会の創出: 5月の収納ボックス/ラック製作、8月の流しそうめんおよび竹工作、11月の炊き出し・灯籠づくり等を通じ、子どもから高齢者までが参加可能な交流の場を複数回創出した。これにより、日常生活におけるささやかな潤いの機会を提供するとともに、地域内の緩やかな関係形成を促進した。
- ④ 継続支援に向けた具体的な準備の実施: 11月に次回企画(イルミネーション等)を見据えた計測・点灯確認・調査を行い、単発イベントに留まらない継続的な環境改善活動への接続を図った。

5. 今後の活動計画

令和8年2月1日(日)に年度内最後の活動として、めった汁炊き出し、上町の仮設住宅団地の外構フェンスへのイルミネーション設置、仮設住宅の縁側空間改善計画(2住戸限定)を予定している。これらも、これまでのイベント実施での交流を通じて得られた住民ニーズをかたちにする活動の一環として実施する。また、令和8年4月以降も引き続き仮設住宅での生活や自宅避難生活を余儀なくされる方々がおられることを想定し、GAPPA notoとしての活動を継続することを検討している。

6. 活動に対する地域からの評価

現地での連携対応をいただいた能登町復興推進課の方から以下のコメントをいただいた。

「R7.5月、8月、11月に炊出しとワークショップを実施していただき、子供から高齢者まで大変喜んでいました。特に収納ボックス/ラック製作は、仮設住宅のサイズに合わせたものを作ることができ、とても好評でした。震災の影響で交流の場が少なくなった地域住民にとって、コミュニティの場となる有意義なイベントなので今後も継続的な実施を期待します。」